

I. ごあいさつ

組合員の皆様には、平素よりＪＡ事業および諸活動につきまして、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

一昨年より続く新型コロナウイルスの感染拡大、ロシアによるウクライナ侵略等を理由に国際情勢は、より一層、緊張感が増しています。また、多くの物資を海外に依存している国内情勢については輸入食品の高騰の他、半導体不足、建設資材の調達遅れ等、あらゆる分野でその影響を受け、今後の日本経済ならびに国民生活へのさらなる影響が懸念されています。

一方、農業情勢は、昨年も豪雨などの自然災害に加え、鳥インフルエンザなど家畜疾病に全国各地が見舞われ、多大な被害が発生しました。加えて、長期化するコロナ禍は、私たちの暮らしの在り方を変え、特に外食や業務用需要の減退により、米や牛乳などを中心として幅広い品目で影響が発生しております。さらには、前述した物資の海外依存は、農産物の生産資材原料も同様であり、生産資材の高騰や資材そのものの入手が困難となる等、様々な要因により農業経営の継続は、厳しさを増しています。

他方、農業を取り巻く状況と同様にＪＡを取り巻く環境も大きな環境変化に晒されています。政府は、これまでのＪＡグループが実践してきた「ＪＡ自己改革」に一定の理解を示しましたが、「ＪＡ自己改革」の深掘りを「総合農協監督指針」に掲げ、その監督・指導を強化していくこととしています。また、同時に「ＪＡ自己改革」を進めていくには、ＪＡ経営の健全性確保が求められており「ＪＡ版早期警戒制度」の改正を行いＪＡ経営の改善状況についても監督・指導を強化していくこととしています。

そのような中、令和３年度は、ＪＡ自己改革で基本理念として掲げている「農業者の所得増大」・「農業生産の拡大」・「地域の活性化」を重点実践分野として取り組みました。特に、組合員訪問活動において「今、組合員が求めている物・事」を傾聴し、農業振興支援金の拡充等、農業者への支援を実施致しました。また、生産資材の調達・供給体制の見直しを行い、生産コストの低減及び上昇幅の抑制に努めました。近年の急激に変化した内外環境に対応するために喫緊の経営諸課題の整理を行い「持続可能なＪＡ経営基盤の確立・強化」を着実に推し進めました。

おわりに、今後も農業・ＪＡを取り巻く環境変化への対応は厳しい状況が続きますが、自己改革の基本目標である【食料・農業基盤の確立・強化】【地域・組織・事業基盤の確立・強化】【ＪＡ経営基盤の確立・強化】を達成するために、役職員ならびに組合員・地域と一体になりＪＡ運営に邁進してまいります。組合員の皆様のさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和４年７月

北九州農業協同組合

代表理事組合長 森 克己